

第26期 新潟市文化財保護審議会

第1回会議 次第

日時 令和4年11月2日（水）
午前10時～12時
会場 新潟市文書館1階講座室

- 1 開会
- 2 文化スポーツ部長挨拶
- 3 委嘱状交付
- 4 審議会委員自己紹介
- 5 事務局紹介
- 6 議事

会長・副会長の選出

<報告事項>

- (1) 新規指定された市内の県指定文化財について 報告事項(1)資料
 - ・ 金銅装筥（鍍金装筥 市指定解除）
 - ・ 延命寺遺跡出土品
- (2) 新規答申された国登録有形文化財（建造物）について 報告事項(2)資料
 - ・ 小鍛冶屋主屋
- (3) 鳥屋野逆ダケの藪の開花及び指定100周年記念事業について 報告事項(3)資料
- (4) 住吉祭 纏（四番組・五番組・二十番組）の調査について 報告事項(4)資料

<協議事項>

- (1) 絵画の新規指定の方向性について【非公開】
(非公開の理由)
新潟市情報公開条例第6条第5号の非公開情報に該当（市の機関等における審議、検討情報）

- 7 現地視察
新潟市文書館 視察
- 8 閉会

報告事項

（1）新規指定された市内の県指定文化財について

ア こんどうそうおい 金銅装笈

新潟県教育委員会が、令和4年3月25日付で「金銅装笈」を新潟県文化財に指定した（新潟県教育委員会告示第4号）。これにより、新潟市文化財保護条例第4条第2項の規定により、県指定と同日付で「鍍金装笈」の名称による市指定が解除された。

- （ア）種 別 有形文化財（工芸品）
- （イ）名 称 金銅装笈
- （ウ）員 数 1背
- （エ）法 量 幅 65.0 cm、奥行 32.0 cm
高 78.5 cm



金銅装笈（開放状態）

- （オ）所 有 者 宗教法人 青龍寺
- （カ）所 在 地 新潟市西蒲区石瀬 3674
- （キ）概 要 山岳信仰の拠点である多宝山の麓に立地する青龍寺に伝えられた木製漆塗り四脚の箱型笈である。

金銅装笈と通称される形式で、正面に仏教図像を表した金銅板を貼る。

金銅板を正面全面に使用し、毛彫りを加える作風は「金銅板貼り式」と呼ばれ、15～17世紀初めの製作と考えられる。

全体的に経年による汚損や破損が認められるものの、本作は15～17世紀初めの信仰と工芸の在り方を示す文化財として重要であり、特に桃山時代以前の作例は数が少なく貴重である。

笈：行脚僧や修験者などが旅をするときに経文などを持ち運ぶために用いた道具で、背負って使用された。

（ク）県指定までの経緯

- 平成7年9月12日 「鍍金装笈」の名称で岩室村文化財に指定される。
(平成17年3月新潟市文化財に継承)
- 令和4年1月25日 県教育委員会が県文化財への指定について県文化財保護審議会に諮問
- 令和4年2月18日 県文化財保護審議会が県文化財に指定するよう答申
- 令和4年3月25日 県文化財指定の県報告示、市文化財指定解除

イ えんめいじいせき 延命寺遺跡出土品

新潟県教育委員会が、令和4年3月25日付で「延命寺遺跡出土品」を新潟県文化財に指定した（新潟県教育委員会告示第4号）。延命寺遺跡出土品は延命寺遺跡（新潟県上越市）の出土品で、新潟県埋蔵文化財センター（新潟市秋葉区）に収蔵されている。



延命寺遺跡出土品の一部（耳環）

報告事項

（2） 新規答申された国登録有形文化財（建造物）について

ア 新規答申された国登録有形文化財（建造物）

- ・ 令和4年7月22日 文化審議会答申（うち、市内所在のものは1件）
- ・ 官報告示後、本市に所在する国登録有形文化財（建造物）は37件（123棟）となる見込み

（ア） 小鍛冶屋（旧高島家住宅）主屋

a 名称 (種別)	こかじや(きゅうたかしまけじゅうたく)おもや 小鍛冶屋(旧高島家住宅)主屋 (建築物・住宅)
b 建築年代	江戸末期/明治中期・大正前期改修
c 所在地	新潟県新潟市西蒲区岩室温泉字居掛666
d 登録基準	一、国土の歴史的景観に寄与しているもの
e 概要	岩室温泉郷の北端に位置する元は板葺きの町屋型住宅である。正面側の玄関土間は数寄屋風で、奥座敷は吹抜で高窓を設ける。街道との間に前栽を置く旧家の表構えが歴史的景観を形成する。現在は料理店として活用している。



小鍛冶屋(旧高島家住宅)主屋 外観(東面) 撮影:田村収



小鍛冶屋(旧高島家住宅)主屋 前座敷1階座敷(南より) 撮影:田村収

新潟市所在の国登録有形文化財（建造物）一覧表（令和4年10月1日現在）

区分	No.	種類	種別	名称	員数	登録年月日	所在地	所有者・管理者	備考
国	1	有	建	新津記念館	1棟	H10.4.21	中央区旭町通	公益財団法人新津記念館	昭和13年
国	2	有	建	北方文化博物館 主屋・大広間ほか	26棟	H12.4.28	江南区沢海	一般財団法人北方文化博物館	明治20年
国	3	有	建	太古山日長堂 主屋・仏蔵	2棟	H12.4.28	北区新崎	一般財団法人太古山日長堂	18世紀中期
国	4	有	建	佐野商店 店舗兼住宅	1棟	H12.4.28	中央区沼垂東	個人	昭和12年
国	5	有	建	二宮家住宅 主屋・農舎	2棟	H12.4.28	江南区俵柳	個人	大正7年
国	6	有	建	斎藤家住宅 主屋・土蔵	2棟	H12.4.28	中央区関屋本村町	株式会社斎藤不動産	明治初期
国	7	有	建	樋木酒造 店舗兼主屋・西・東酒蔵	3棟	H12.4.28	西区内野町	公益財団法人鶴友会	20世紀初期
国	8	有	建	木揚場教会	1棟	H12.4.28	中央区礎町通	木揚場教会	大正15年
国	9	有	建	行形亭 主屋ほか	10棟	H12.4.28	中央区西大畑町	株式会社行形亭	19世紀中期
国	10	有	建	鍋茶屋 主屋ほか	7棟	H12.4.28	中央区東堀通	合資会社鍋茶屋	明治43年
国	11	有	建	燕喜館(旧斎藤家住宅) 主屋	1棟	H12.4.28	中央区一番堀通町	新潟市	明治41年
国	12	有	建	北方文化博物館新潟分館 主屋・洋館ほか	7棟	H12.4.28	中央区南浜通	一般財団法人北方文化博物館	明治28年頃
国	13	有	建	諸橋家住宅 主屋・土蔵	2棟	H13.11.20	江南区茗荷谷	個人	大正10年頃
国	14	有	建	飯田家住宅土蔵	1棟	H14.8.21	西区内野町	個人	明治22年
国	15	有	建	吉田家住宅 主屋・座敷棟・土蔵	3棟	H15.1.31	秋葉区大鹿	個人	明治16年
国	16	有	建	大橋屋 主屋及び土蔵	1棟	H15.7.1	中央区本町通	個人	昭和10年
国	17	有	建	亀田町上水道高架水槽	1棟	H15.7.1	江南区亀田水道町	新潟市	昭和8年
国	18	有	建	高島屋 主屋・土蔵・旧米蔵	3棟	H16.7.23	西蒲区岩室温泉	個人	宝暦5年
国	19	有	建	新潟大学 旭町学術資料展示館ほか	2棟	H17.11.10	中央区旭町通	国立大学法人新潟大学	昭和4年
国	20	有	建	旧第四銀行住吉町支店	1棟	H17.11.10	中央区柳島町	新潟市	昭和2年
国	21	有	建	妙光寺 三重小塔・山門・鐘楼	3棟	H18.3.2	西蒲区角田浜	妙光寺	18世紀後期
国	22	有	建	小林家住宅 主屋	1棟	H18.3.27	中央区南毘沙門町	個人	昭和13年
国	23	有	建	石本家住宅 主屋ほか	6棟	H19.12.5	江南区東本町	個人	明治34年～昭和初期
国	24	有	建	内島見 観音堂・仁王堂	2棟	H19.12.5	北区内島見	宗教法人養福寺	元治2年・明治34年
国	25	有	建	石動神社 本殿・拝殿	2棟	H20.7.8	北区白新町	宗教法人石動神社	寛政8年
国	26	有	建	古峯神社 本殿	1棟	H20.7.8	北区白新町	宗教法人石動神社	天保8年
国	27	有	建	稲荷神社 本殿・拝殿及び幣殿・神輿庫	3棟	H20.7.8	北区葛塚	宗教法人稲荷神社	文化12年
国	28	有	建	開市神社 拝殿	1棟	H20.7.8	北区葛塚	宗教法人稲荷神社	明治4年
国	29	有	建	原家住宅 主屋ほか	10棟	H28.8.1	江南区二本木	個人	明治35年～大正3年頃
国	30	有	建	敬覚寺本堂	1棟	H28.8.1	江南区酒屋町	宗教法人敬覚寺	大正8年
国	31	有	建	小松屋旅館 本館・広間棟・表座敷棟・奥座敷棟	4棟	H28.8.1	西蒲区岩室温泉	個人	大正3年～昭和32年
国	32	有	建	梅嶋家住宅 主屋	1棟	H29.10.27	中央区四ツ屋町	個人	昭和元年頃
国	33	有	建	旧白根配水塔	1棟	H30.5.10	南区上下諏訪木字川原	新潟市	昭和8年
国	34	有	建	中原家住宅 主屋ほか	5棟	H30.5.10	西区赤塚	個人	万延元年～昭和10年頃
国	35	有	建	高須家住宅 主屋・土蔵	2棟	R1.12.5	中央区上大川前通	個人	明治中期
国	36	有	建	旧片桐家住宅 主屋・土蔵	2棟	R3.2.4	中央区上大川前通	個人	明治35年・明治前期
新潟市 合計(現在)					122棟				
新潟県 合計(R4.10.1時点)					541棟				
全国 合計(R4.10.1時点)					13,409棟				

国指定天然記念物「鳥屋野逆ダケの藪」の2022年開花状況

- 1 120年に1度とも言われるハチクの開花が、「鳥屋野逆ダケの藪」において最初に確認されたのは、2019年（令和元年）であった。この年に開花した竹は8本のみという小規模なものだった。
- 2 3年ぶりの本年（2022年）は1月に西門付近で開花が確認されたが、花穂の状態から、前年（2021年）の秋（10月頃？）には開花が始まっていた可能性がある。その後、4月から8月にかけて竹藪の西側外周のほとんど全ての竹（約400本）が開花するという盛大なものとなった。
- 3 開花した竹は、2022年10月には全て葉を落とし、稈は黄色に変色し、枯死しつつある。種子は形成されなかった。
- 4 開花・枯死したハチク林の再生過程は未解明であるが、マダケの場合から類推すると、開花株の地下茎の一部は残存し、再生竹（小形の笹状のもの）を生じながら、数年かけて再生してゆくと考えられる。
- 5 最近の4年間に開花した竹は、面積にして「鳥屋野逆ダケの藪」の十分の一程度であり、20万本と推定される程のごく一部である。この間の開花竹は単一のクローンである可能性が高い。種子形成が見られなかったことは、同一クローン内での受粉による自家不和合性の結果であるとも考えられる。
- 6 それゆえ、「鳥屋野逆ダケの藪」は複数のクローンから構成されていると考えられ、それらのクローンが今後、次々と開花することが予想される。

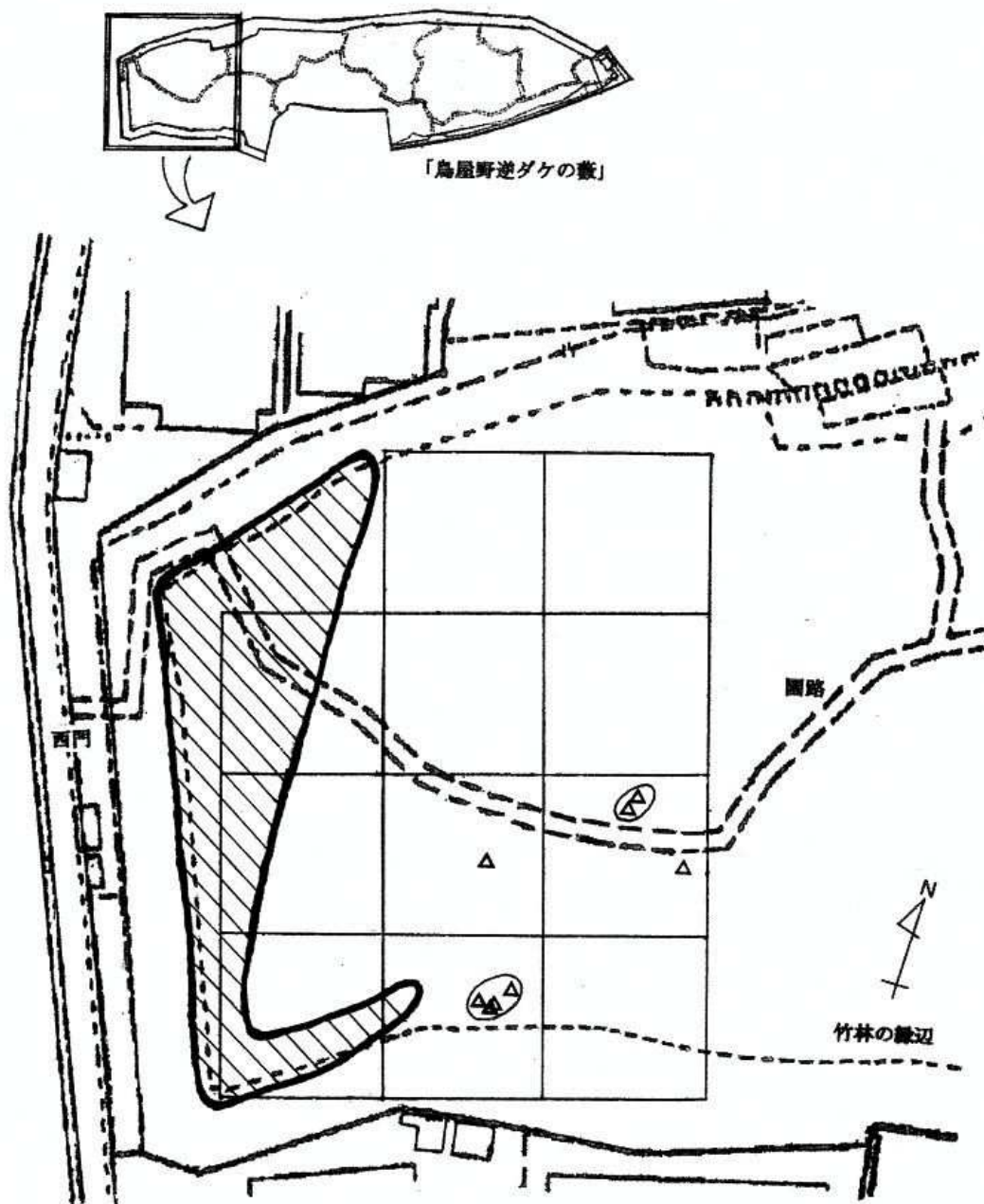


図 「烏屋野逆さ竹の藪」の開花状況 (正方形は10m x 10m)
△は、2019年に開花した稈 (8本)
太線で囲んだ斜線部は、2022年の開花範囲 (約400本)

国指定天然記念物 鳥屋野逆ダケの藪 指定100周年記念

「もっと知りたい！ 鳥屋野のお宝 逆ダケの藪」の開催について

(ア) 概要

日時：令和4年10月29日（土）10時00分～11時40分

会場：鳥屋野小学校体育館

参加人数：120人

共催：鳥屋野校区コミュニティ協議会・鳥屋野小学校学校運営協議会

目的：鳥屋野逆ダケの藪は、大正11年（1922）に国指定天然記念物に指定され今年で100周年を迎える。これを記念して、これまで鳥屋野逆ダケの藪の保護に尽力されている地域や学校の取り組みを紹介するとともに、逆ダケへの理解を深めるために講演会を開催した。

(イ) 内容

- a 開会あいさつ（市長）
- b 逆ダケの藪愛護の会の活動紹介（逆ダケの藪愛護の会）
- c 鳥屋野のお宝！大発見！！（鳥屋野小学校3年生）
- d 講演会「逆ダケのふしぎ」

講師 森田龍義 新潟大学名誉教授

- e 閉会あいさつ（鳥屋野校区コミュニティ協議会）

コーディネーター 坂井秀弥 新潟市歴史博物館館長



報告事項

（４） 住吉祭 纏（四番組・五番組・二十番組）の調査について

ア 調査対象の概要

現在の新潟まつりは、それまで個別に開催されていた四つの祭り（住吉祭・商工祭・川開き・開港記念祭）を昭和 31（1956）年、一つにしたものである。

中でも住吉祭は、近世の新潟町で行われていた住吉神の祭り「湊祭」に由来しており、天保 14（1843）年の「市中風俗書」には、湊祭において「纏（まとい）」という出し物が町中を練り歩いた様子が描写されている。纏は新潟町の複数町内から成る「番組」が、それぞれ異なる意匠の飾り物を台車に載せて曳き回すもので、当時の祭り行列を記録した文久 3（1863）年の「湊祭行列帳」から、今回調査対象となった四番組・五番組・二十番組を含む（ただし内容は後述のとおり一部異なる）二十二番組までの纏とその内容について知ることができる。

また、昭和 48（1973）年度刊行の「新潟市文化財調査報告書」では、当時現存する纏は「3 番組、4 番組、5 番組、8 番組、20 番組の 5 組（※1）」とされていた（網干 1974）。

しかし、地元所有の三番組（※2）・八番組を除く纏の行方は久しく不明のままであった。

イ 調査に至る経緯

中央区の白山神社から「所有している纏の取り扱いを相談したい」との連絡があり、平成 29 年 9 月 29 日、歴史文化課及び歴史博物館職員が現地確認を行った。

（ア）経緯について神社側説明内容

- ・ 詳しい記録はないが、昭和 40 年代半ばころ、複数町内より纏寄附の申し出があり、受け入れた。
- ・ 新潟まつりで曳き回すなど活用を考えていたが、神社の倉庫に収納したまま、結果として一度も使用せず、約 50 年が経過した。
- ・ 倉庫が老朽化し、近い将来改築したいが、新たな倉庫に纏を再び保管する考えはなく、引取り手がなければ廃棄もやむを得ないと考えている。

現地で存在が確認された 3 基の纏のうち、2 基は四番組・五番組のもので、大正年間に撮影された住吉祭の写真にも記録されていることがわかった。残り 1 基は二十番組のもので推定されたが、製作過程や履歴、由来など詳細は不明であった。

（イ）歴史博物館による当日所見の概要

- ・ 寸法（幅×奥行（mm））
四番組（2,010×4,010）
五番組（1,850×4,002）
推定二十番組（1,500×4,500）
※飾り物は解体・取り外しされた状態のため、台車の寸法のみ
- ・ 四番組及び五番組のものは飾り物が木箱に収納されており、四番組のものには「大正六年八月」、五番組のものには「寛政十年」（1798 年）との墨書が確認できる。

- ・ 推定二十番組のものは、雄鶏と太鼓の装飾で、中国の故事「諫鼓（かんこ）」に題材をとったものと思われる。平成28年8月12日に市民から寄せられた情報では、二十番組のものではないかとのこと。この纏に関する写真資料等は未発見。
- ・ なお、二十番組は近世では夜祭りで灯籠を出す担当だった。明治の復興以降、夜祭りは廃止、昼祭りだけになったので、推定二十番組の纏は近代以降の製作と推定される。
- ・ ちなみに、前出「湊祭行列帳」によれば、各番組に該当する現代の町名は
 四番組：上大川前通、本町通、東堀前通の各8・9番町
 五番組：上大川前通、本町通、東堀前通の各6・7番町
 二十番組：東堀通10・11番町 となる。

これらの纏は湊祭・住吉祭の歴史を知るうえで重要な資料と考えられた。

令和2年12月に至り、次年中に倉庫解体を行うため、纏の取り扱いを早期に決めるよう白山神社より再度の申し入れがあったことを受け、纏の受入れ可否判断のための調査について検討を始めた。新型コロナウイルス感染症の渦中であり、現地調査の時期は再々延期となったが、一時的に流行が下火となった機会をとらえ、下記のとおり実施した。

ウ 調査内容と結果

調査目的：白山神社保有の新潟まつり（住吉祭）纏3基（四番組・五番組・推定二十番組）について文化財的価値を明らかにし、今後の保存など取り扱い方針検討のための資料を得る。

調査方法：目視による観察を中心に、纏の材質・製作技法などを推定し、各部について詳細な記録を作成する。

調査体制：調査指導

岩田多佳子氏（新潟市文化財審議会委員 専門：絵画・美術工芸品）

松岡誠一氏（仏像文化財修復工房代表 専門：彫刻）

スタッフ

新潟市歴史博物館（副館長・小林隆幸、学芸担当次長・大森慎子）

歴史文化課（課長補佐・廣野耕造、副主査・古俣光貴）

調査日：令和3年7月15日（木） 午後2時～4時30分

調査地：北区島見町（西川運輸興業株式会社倉庫内※3）

調査結果：調査指導者所見を中心に以下に記す。各纏の計測値等、調査結果は表1のとおり。

（ア）全体について

- ・ 各纏は飾り物と台車に大きく分かれる。
- ・ 纏関連の道具を収納した木箱が19個あり、多くは箱書から大正4（1915）年及び同6（1917）年に新調されたものと推定。五番組の「軍配団扇」を収納した木箱だけ寛政10（1798）年の箱書で最古。
- ・ 飾り物について：

四番組・五番組のものは各部に分解のうえ所定の木箱に収納される仕組みと

なっている。推定二十番組のものは雄鶏（諫鼓鳥）、台座部分とも収納箱はなく、細かく分解もできない。

- ・ 台車について：

部分ごとに部材が異なっており、比較的新しい部分については劣化により後世に取り替えられたものと思われる。

（イ）四番組纏について

- ・ 飾り物について：

鳳凰の造りはしっかりしているが、特別な手法等はみられない。漆の上に金箔張りとなっており、製作には経費をかけたようだ。「塗師 大黒善太郎」「彫師 亀貝三造」の名が残され、新潟の職人の遺品として貴重。

先額は、大正四年に「書師 鈴木赤城」「口師 前山武士」「縫師 小川久太郎」「木師 池田久蔵」「塗師 大黒善太郎」の名が残されている。

- ・ 台車について：

3台中最大。大正6（1917）年に製作され、布貼り錆漆下地黒漆塗りで、非常に手が込んでおり、金具もよいものが使われている。部材ごとの箱が残されていて、分解して保管したことがわかる。

（ウ）五番組纏について

- ・ 飾り物について：

「湊祭行列帳」など古文書中にも記載のある「軍配団扇」。纏として持つために、複数の板材を組み合わせて製作することで中を空洞にし、軽量化を図っている。文字等については、赤く焼けを起こしていることから、漆で書かれていると思われる。描かれている鶴と日の出は、吉祥を表す典型的な画題であり、落款等作者名を知る手がかりもなく、画題等から製作年代を特定することは難しい。また祭道具として使用している中で、顔料の補筆等も当然考えられる。箱書には寛政10年とあり、そのころ製作されたものだとしても違和感はない。先額は巖谷小波の書である。

- ・ 台車は形式的に3台のうち最古と思われる。

（エ）推定二十番組纏について

- ・ 飾り物について：

諫鼓鳥と太鼓は「湊祭行列帳」などに記載なく、近代以降の製作と推定。台は錆漆を立体的に盛り上げ、色漆で色を付ける「疑似的な蒔絵」で装飾している。製作年代は新しいかもしれないが、非常に大きく立派である。

- ・ 台車について：

3台のうち最も新しいものと推定。ただし一部部材には古いものも使用されている様子。

（オ）価値判断ほかについて

- ・ 纏関係の道具には製作者、製作年代が分かるものが多く、他の作品や調査等の基準となる。
- ・ 道具類は補修、補筆を繰り返し、伝世してきたものとみられ、まつりの変遷等を示すものとして、文化的というより歴史的価値が認められ、道具一式で評価され

るもの。往時のまつりの習俗を物語る資料として興味深い。

- ・ ただし形式や装飾品の製作技法上、顕著な文化財的価値があるとまでは言えない。
- ・ 保管、展示場所の問題はあるが、廃棄するには惜しい。設置展示の形で活用しながら保存していく形が望ましい。

以上の調査所見を踏まえ、3基の纏の取り扱いを検討の結果、以下の結論に達した。

- 四番組と五番組については、古文献にも記載され、直近大正年間の画像記録もあることから、湊祭～住吉祭の伝統を継承している資料と評価できる。よって、歴史資料として白山神社より寄附を受け、歴史博物館の収蔵資料とし、活用していくこととする。
- 推定二十番組の纏については、比較的新しい近現代の所産と推定され、祭りの型式の変遷を示していると評価できるが、本来の祭の伝統をそのまま継承している資料とまでは言えない。よって、本市で寄附を引き受けることはしない。

エ その後について

令和3年11月には、市民有志の手で今回調査対象となった3基の纏の組み上げを行い、祭りで活躍していた当時の姿を確認している。

調査結果による上記所見、また所有者白山神社との協議を受け、四番組及び五番組纏に係る物品一式については歴史資料としての価値を認め、歴史博物館で収蔵し、今後活用の道を探ることとなった（寄附による所有者変更は令和4年1月1日付け）。

市として受け入れない方針となった推定二十番組の纏に係る物品一式は、新潟まつりの一番組町内で活用の希望があり、民間所有の纏として引き取られることとなった。

その後、民間所有の文化財についてその修繕や道具新調、後継者育成を行うための文化庁令和3年度補正事業（地域文化財総合活用推進事業「地域の伝統行事等のための伝承事業」）についての募集が令和4年1月にありこの推定二十番組の纏を含む複数の文化財についての要望が採択され、令和4年10月現在、修繕作業中である。同7月24日から31日には仮修繕の終わった推定二十番組の纏を始め、現在市内に残る全ての纏が再開なった新潟まつりの関連事業として古町ルフル前広場で展示され、多くの市民の注目を集めた。

<注>

- ※1 令和3年現在、ほかに存在している纏は、一番組、百一番組がある（うち一番組・八番組・百一番組は各町内で保有）。
- ※2 当初三番組は町内で保有していたが、平成10年、諸事情により市に寄附されている。
- ※3 白山神社倉庫改築のため、民間業者の倉庫に一時的に移動・収納されていた。

<参考文献>

網干嘉一郎 1974「新潟湊祭「纏」について」『昭和48年度 新潟市文化財調査報告書』新潟市教育委員会

みなと新潟実行委員会（事務局：新潟市歴史博物館）2016「文化庁 平成27年度文化芸術振興費補助金 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業 湊祭復元事業『新潟まつりの歴史をさぐる』」

表1 住吉祭 纏(四番組・五番組・二十番組) 調査結果

【箱入り】							
箱号数	大きさ(m)			年代	内容	所属	備考
	縦	横	高				
1 壹號	1.92	0.36	0.18	大正6年8月	纏鉢	四番組	刃部は布張り・さび塗・銀箔に漆塗? 箱書「纏鉢」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」
2 貳號	1.27	0.93	0.30	大正6年8月	纏額	四番組	緩衝材に昭和37年新聞 箱書「纏額」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」
3 参號	2.15	0.83	0.60	大正6年8月	纏鳳凰	四番組	箱書「纏鳳凰」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」 鳳凰の裏面に「元清人 塗箱師大黒善太郎、彫師亀貝三造」の銘
4 肆號	1.31	1.17	0.47	大正6年8月	纏二重臺	四番組	内部にさらに箱が二つ(先額入り) 箱書「纏二重臺」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」
4-1				大正4年8月		四番組	「住吉祭」 箱書「先額」「本町通八番町」 箱裏書「発起人 島本庄次郎(中略) 兼 年総代 中谷仁平」
4-2				大正4年8月		四番組	「住吉祭」 箱書「先額」「本町通八番町」 箱裏書「(発)起人 島本庄次郎(中略) 兼 年総代 中谷仁平」
5 伍號	2.05	0.66	0.38	大正6年8月	纏●(木偏に關)欄	四番組	内容は部材? 緩衝材に昭和37年新聞 箱書「纏(木偏に關)欄」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」
6 六號	0.67	0.46	0.38	大正6年8月	雑具+「一万度」		
7 七號	2.22	0.44	0.23	大正6年8月	纏縁縁	四番組	台車欄干を収納? 中身は空 箱書き「纏縁縁」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」
8 八號	2.06	0.44	0.23	大正6年8月	—	四番組	台車欄干を収納? 中身は空
9 九號	0.58	0.45	0.34	大正6年8月	—	四番組	ただし中身は空 箱書「錦旗及幕」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」 箱外に銀糸刺繍の錦旗(波に千鳥)と思われるもの2枚(内一枚大きく破損)あり
10 拾號	3.12	0.38	0.24	大正6年8月	纏轆	四番組	台車用の予備 箱書「纏轆 二本」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」
11 拾壹號	1.11	1.16	0.62		纏車二個		ただし中身は空 箱書「纏車二個」
12 拾貳號	0.85	0.27	0.31	大正6年8月	纏鍊具一式	四番組	内容は部材が主 滑車は鳳凰飾を引き上げるためのもの? 箱書「纏鍊具一式」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」
13 (号外)					—	四番組	ただし中身はほぼ空 箱書「前●(木偏に關)欄 二個」「□□ 二個」「牡丹 二個」 「木筒 二個」「上大川前通 本町通 東堀前通 八九番町」
14 (号外)				大正4年8月	太鼓	四番組	太鼓 箱書「太鼓 四番」 太鼓本体に「住吉祭 四番」「大正四年 本町通(八番町?) 本町通(九番町?) 上大川前通(八番町?) 上大川前通(九番町?) 東堀前通(八番町?) 東堀前通(九番町?) 4」
15 (号外)	1.55	0.94	0.12	寛政10年	軍配扇飾	五番組	表に「五番組(金箔地に漆書)」、裏に日輪と鶴の絵 箱書「寛政十年」「松浦久右口~」
16 (号外)	0.72	1.08	0.10	大正4年	先額水引幕	五番組	箱書「先額水引幕 窓口入」「御即位式記念刺繍」「右漫幕 左鳳凰」「有職菊桐」「五番」 箱裏書「大正四年 於京都」
17 (号外)	0.92	0.64	0.24	大正4年	先額	五番組	「住吉祭 小波」 箱書「先額 窓對ノ内」「五番」 箱裏書「大正四年新調」「巖谷小波先生書」「坂田治三郎作」「本町通六七番町 上大川前通六七番町 東堀前通六七番町 東堀通七番町 共有」
18 (号外)	0.89	0.65	0.26	大正4年	先額	五番組	「住吉祭 小波」 箱書「先額 窓對ノ内」「五番」 箱裏書「大正四年新調」「巖谷小波先生書」「坂田治三郎作」「本町通六七番町 上大川前通六七番町 東堀前通六七番町 東堀通六番町 共有」 緩衝材に昭和35年産経新聞
19 (号外)	0.73	0.49	0.59		半纏・「一万度」	五番組	茶箱 箱書「住吉祭典 五番共有器具具」
【その他単品】							
20					雄鶏	二十番組?	脚にあたる取り付け部分は鉄パイプ製 No.21の太鼓に接続し、「諫鼓鶏」を表す
21					太鼓	二十番組	太鼓表面に「二十番」
【台車】							
22	4.01	2.20	2.01			四番組	本体に二輪、曳き手に二輪の型式 高欄に細工された飾り金具
23	4.00	2.20	1.85			五番組	本体に四輪の型式⇒やや古いか
24	4.50	2.20	1.50			二十番組?	本体に二輪、曳き手に二輪の型式 「諫鼓鶏」台座に色漆で装飾



四番組纏



五番組纏



推定二十番組纏



調査状況



四番組飾り物（鳳凰）



五番組飾り物（軍配団扇）



五番組軍配団扇収納箱墨書（寛政十年）



古町ルフル前広場での纏展示①
（令和4年7月）



古町ルフル前広場での纏展示②
（令和4年7月）

第26期 新潟市文化財保護審議会委員名簿

任期 令和4年6月1日から
令和6年5月31日まで
(五十音順)

氏名	所属・職名等	専門分野等
あさくら ゆうこ 浅倉 有子	上越教育大学大学院学校教育研究科 国際交流推進センター特任教授	有形文化財 (歴史資料〔近世史〕)
いわた たかこ 岩田 多佳子	一般社団法人安吾顕彰会理事	有形文化財 (絵画、美術工芸品)
おだ せつこ 小田 節子	元内野中学校教諭	無形民俗文化財
かがや まり 加賀谷 真梨	新潟大学人文学部准教授	有形・無形民俗文化財
くりた ひろし 栗田 裕司	新潟大学理学部准教授	記念物(地質鉱物)
くろの ひろやす 黒野 弘靖	新潟大学工学部准教授	有形文化財(建造物)
さかい ひでや 坂井 秀弥	奈良大学名誉教授 新潟市歴史博物館館長	記念物(史跡) 有形文化財(考古資料)
なかむら もと 中村 元	新潟大学人文学部准教授	有形文化財 (古文書、 歴史資料〔近現代史〕)
まつおか くみこ 松岡 久美子	近畿大学文芸学部准教授	有形文化財 (彫刻、美術工芸品)
もりた たつよし 森田 龍義	新潟大学名誉教授	記念物(植物)
やまざき まさこ 山崎 誠子	日本大学短期大学部准教授	記念物(名勝)